

町民の皆さんへインタビュー

嵐山町と歩んだ今までとこれから

プロサッカークラブ大宮アルディージャに所属するサッカー選手、黒川淳史さんに話を伺いました。

嵐山町の幼少期の思い出はありますか。

兄の影響で自分もサッカーを始め、小学生の頃からサッカー漬けの少年時代だったように思います。練習が休みの日も公園に行つてサッカーをし、とにかく毎日ボールを触っていました。玉ノ岡中学校時代は、サッカーはもちろん、勉強も頑張っていました。部活には入っていませんでしたが、選抜メンバー

の一員として陸上や駅伝の大会に出場したこともあります。嵐山町のチームに所属していたこともあるそうですね。

小学校低学年の頃、嵐山町サッカー少年団に1年ほど在籍していました。その後、江南南サッカー少年団に移りました。当時の嵐山町サッカー少年団は同年代の人数が少なく、低学年の自分は試合に出られなかったため、同年代の選手が多い江南南サッカー少年団に移籍しました。

プロになろうと意識したのはいつですか。

子どもの頃からサッカー選手になりたいと思っていたので、自然と今の自分がある感じがします。12歳のときにスカウトの方から声がかかり、大宮アルディージャユースに入りました。大宮アルディージャユースを経て、18歳でプロになりました。プロになり、周りに変化はありましたか。

サポーターの方々をはじめ、たくさんの方から応援の声をいただけるようになりました。地元の友人からメールが来たり、声をかけてもらえたりすることにも励みになっていきます。そして、いちばんに応援してくれているのはやはり両親です。子どもの頃から今まで、試合は欠かさず見に来てくれています。辛いときはありましたか。

チームとしては、結果を出すために勝ちにこだわっていかなくてはならないと思います。自分たちができることは、練習を重ねて、全員が同じ方向を向いて試合に臨んでいくことです。今後の夢を聞かせてください。

将来的には、海外でプレーしたいという夢を叶えたいです。スペインのチームでプレーをすることが、子どもの頃からの夢であり、目標です。U-16から日本代表として何度か海外遠征を経験しましたが、海外の選手との試合は国内の大会とは違った刺激があり、とても楽しいです。嵐山町で好きな場所や好きな過ごし方がありますか。



@N.O.ARDIA



黒川選手には、プロになるまでの軌跡と、未来の夢について伺うことができました。ありがとうございました。



嵐山町で幼少期を過ごし、現在子育て真っ最中の桑畑直美さんに話を伺いました。

子どもの頃の思い出をお聞かせください。

よく、歴史資料館（現嵐山史跡の博物館）のまわりで遊んでいました。友達と基地を作ったりしていました。夏は、B & G 海洋センターのプールもよく行きました。友達と越生町まで自転車ですぐに行けたことがありますが、結局休園していたので入れなかったことがありました。楽しい思い出です。

親の関係で小学1年生からバレーボールを始め、週5回の練習が楽しかったのを記憶しています。

学校では、どんなお子さんでしたか。

皆よりも少し遅れて行動をする、のんびりでマイペースな子でした。

中学校の思い出はありますか。

嵐山町の好きな場所はありませんか。

B & G 海洋センター周辺は夜の星空がとても綺麗で好きです。都幾川堤の桜も好きです。以前、インターネットを見ていたところ、都幾川の桜堤を空撮していたサイトを見つけました。素敵だったので、友達にす



帽子が良く似合う桑畑さんには、子どもの頃の思い出と人の交流の大切さを伺うことができました。ありがとうございました。



仕事をしながら3人のお子さんを育てる瀧澤叔子さんに話を伺いました。

嵐山町での幼少期の思い出をお聞かせください。

出身は小川町なのですが、中学生時代、部活の試合などで時々嵐山町に来ることはありました。また、武蔵嵐山駅前にあった文房具屋「パレット」によく行っていました。文房具だけでなく、可愛い雑貨なども扱っているお店でした。

嵐山町にきたのはいつ、どんな理由ですか。

結婚し、7年間は川越市に住んでいましたが、家を購入するにあたり嵐山町に住むことにしました。嵐山町を選んだ理由は、通勤に便利で生活しやすいと思ったからです。

他の市町村と比較して、嵐山町のよさを感じることはありますか。

嵐山町に住みはじめて10年で